

いはくさん

第51巻 第1号

目次

P1

令和5年の白山登山について

村中 克弘

P5

令和4年度 白山まるごと体験教室をふり返って

川島 敦仁

P11

白山外来植物除去活動について

北原 岳明

P15

センターの動き



(写真提供：白山手取川ジオパーク推進協議会)

白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパーク認定へ

5月24日パリで開かれた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の執行委員会で、白山市全域をエリアとする白山手取川ジオパークが国内10例目となるユネスコ世界ジオパークの認定を受けました。

ジオパークとは、地球や大地を意味する「ジオ」と「パーク」（公園）を組み合わせた造語で、白山手取川ジオパークでは、白山を源流に日本海へ注ぐ、手取川の流れを「水の旅」「石の旅」というキーワードで捉えています。また、手取川の流域を、百万貫の岩や桑島化石壁、手取峡谷などをはじめとする「山と雪」「川と峡谷」の2つのエリアのほかに、日本海に向けて扇状地が広がる「海と扇状地」の3つのエリアに分けています。そこには貴重な地質や地形、生態系と特色のある豊かな文化が育まれてきています。

多くの方々の待ちに待った瞬間が訪れ、溢れんばかりのたくさんの笑顔と大きな歓声に包まれた、大変嬉しい一日となりました。

(川島 敦仁)

令和5年の白山登山について

村中 克弘（白山自然保護センター）

白山の最高峰である御前峰（2,702m）に通じる登山道は、石川県側をはじめ、岐阜・福井の3県の10の登山口から15の登山道が整備されています。コロナ禍前の令和元年（2019年）以前までは、年間3～4万人の登山者で賑わっており、また山上の宿泊施設である室堂・南竜ヶ馬場では年間2～3万人の宿泊利用がありました。しかしながら、令和2年（2020年）シーズンからのコロナ禍により、昨年までの3年間、白山を訪れる登山者数は減少し、この間、日帰り登山者の割合が増加するなど登山形態にも変化が見受けられました。令和5年（2023年）は5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に見直される状況の中で、今年は白山登山を計画している方も多くいるのではないのでしょうか。

そこで、登山シーズンを迎えるにあたり、白山における施設、登山道、白山で実施される活動等について、コロナ禍の影響も含めて、近年の変更した点を中心にお伝えします。



三方岩岳から山頂方面を望む

1. 登山道について（6月20日現在）

最も多くの登山者に利用されている砂防新道や観光新道は通常どおり利用することが出来ます。

釈迦新道については、平成29年（2017年）以降アクセス道路である工事中道路が、湯ノ谷付近で道路山側山腹に崩壊が発生したため長らく通行出来ませんでした。復旧工事も進み、今年から利用出来るようになりました。

同登山道は釈迦岳前峰（2,026m）まで往復する登山者も多く、ブナ林が美しい人気のルートですので、一度歩いてみてはいかがでしょうか。特に釈迦岳前峰から間近に見る御前峰の眺望は素晴らしく、日帰りで往復する登山者も多くいます。

なお、令和5年以降も復旧工事は継続して行われますので、工事現場や工事中道路を通行する際には、工事車両に十分注意するとともに、現場の指示に従うようお願いいたします。

甚之助避難小屋から少し登った所から南竜ヶ馬場へ向かう水平道、エコーライン、室堂と南竜ヶ馬場を結ぶ最短ルートであるトンビ岩コースも一部改修されて歩きやすくなりました。ただし、トンビ岩コースは残雪が遅くまであるため、通行には最新の情報を確認のうえご利用願います。

一方、岩間道や噴泉塔への登山道は、平成26年（2014年）以降通行出来なくなっており、更に令和3年（2021年）には、別の箇所でもアクセス道路である工事中道路が崩壊したため、当分の間通行の見通しはたっていません。そのため、絶対に岩間道には下山しないよう、くれぐれもお



弥陀ヶ原からの山頂（御前峰）



釈迦岳前峰から山頂方面を望む

願いたします。

楽々新道についても、アクセス道路である県道岩間一里野線が昨年8月の豪雨以降、通行止めとなっているため、現在は利用出来ない状況となっています。

また、福井県の鳩ヶ湯新道についても登山口までのアクセス道路である上小池勝原線が鳩ヶ湯～上小池間で通行止めとなっているため、現在利用出来ません。

その他の登山道については、今の所通常どおり利用することが出来ますが、登山にあたっては、アクセス道路の通行状況も含め、最新の情報を当センターホームページなどで確認のうえご利用願います。

2. 宿泊施設について

白山の山上には、山頂直下の室堂（2,450m）と南竜ヶ馬場（2,080m）の2箇所に宿泊施設がありますが、令和3年（2021年）に、新型コロナウイルス感染防止対策や近年の登山者ニーズに応えるため、これまで雑魚寝だった就寝場所を、全て2人ないし3人用に区画分けを行い、また通路側にプライバシーが確保出来るようカーテンを設置しました。

そのため、新型コロナウイルス感染防止はもとより、周りに気兼ねすることなく体を休めて頂けるようになりました。これまで一度も山上で宿泊していない方も、是非一度山上で宿泊し、夕日、満天の星空、御来光、早朝の澄んだ空気の中での雲上散歩を堪能してみたいはいかがでしょうか。

なお、混雑が予想される日の宿泊について、区画分けしたことにより定員が少なくなっておりますので、早めの予約を推奨します。予約が取れない場合は、申し訳ありませんが日にちをずらすなどして頂くようお願いいたします。

3. トイレについて

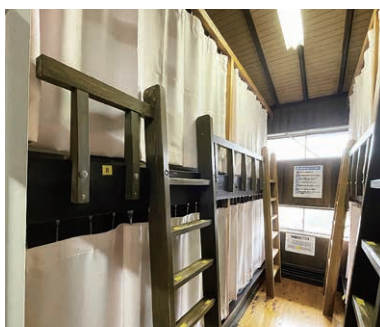
室堂では、令和2年（2020年）より公衆便所が水洗化されウォシュレットも配備し、同



室堂全景



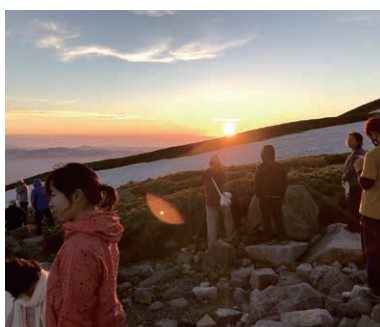
南竜ヶ馬場全景



室堂の宿泊室



同左



室堂の夕陽



早朝のお池巡り



室堂公衆トイレ



トイレ内部

年6月より供用を開始しています。これまでの「臭い」・「汚い」山のトイレに抵抗を感じている方も、快適に利用して頂けるようになり、登山者からも大変好評を得ています。また令和4年（2022年）には、近年のキャンプブームで今後利用者の増加が見込まれる南竜ヶ馬場野営場でもトイレが新たに整備され、南竜ヶ馬場の宿泊施設である南竜山荘のトイレとともに水洗化され、より快適な環境を提供することが出来るようになりました。

なお、室堂については、水源を湧水により確保しているため、残雪や降雨量が少ない年は水が枯渇することも予想されます。水の枯渇が懸念される場合は、節水等の対策をお願いすることもありますので、ご協力をお願いします。

4. 解説員活動について

白山では毎年、石川県自然解説員研究会による高山植物をはじめとした自然の解説活動が行われています。

室堂や南竜ヶ馬場周辺では、今年は7月15日（土）より8月14日（月）までの間、早朝1回と夕方2回、周辺のお花畑などを30分～1時間程度観察会を行います。

また、この期間の土曜（登りのみ）・日曜（下りのみ）には、別当出合から室堂、もしくは別当出合から南竜ヶ馬場まで、約3～4時間かけて砂防新道で、高山植物などを解説しています。いずれも事前申込不要、無料ですので白山の自然や高山植物に興味のある方は、是非一度聞いてみてはいかがでしょうか。白山への興味も一層深まるのではないのでしょうか。詳しいことは、石川県自然解説員研究会のホームページ（<https://kaisetuin.jimdofree.com/>）でご確認下さい。



室堂周辺での観察会

5. 白山登山マイカー規制について

昭和63年（1988年）より別当出合駐車場が狭小なため、主要登山口である市ノ瀬～別当出合6 kmの区間において、休日を中心とした登山混雑時にマイカー規制を実施しているところです。しかしながら近年日帰り登山者の割合が増えている影響か、7月下旬～8月上旬にかけては平日であっても晴天になると多くの登山者が訪れ、別当出合駐車場及びその周辺道路が混雑していることから、今年は試行的に7月下旬から8月上旬にかけて毎日マイカー規制を実施しますので、ご理解をお願いします。マイカー規制実施中はシャトルバスが5時から17時まで10～20分間隔で運行されますので、こちらをご利用願います。なお、今年は高山帯への低地性植物の侵入防止及び混雑時の円滑な駐車誘導を図ることを目的に、市ノ瀬駐車場の舗装工事を実施します。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがご協力をお願いします。



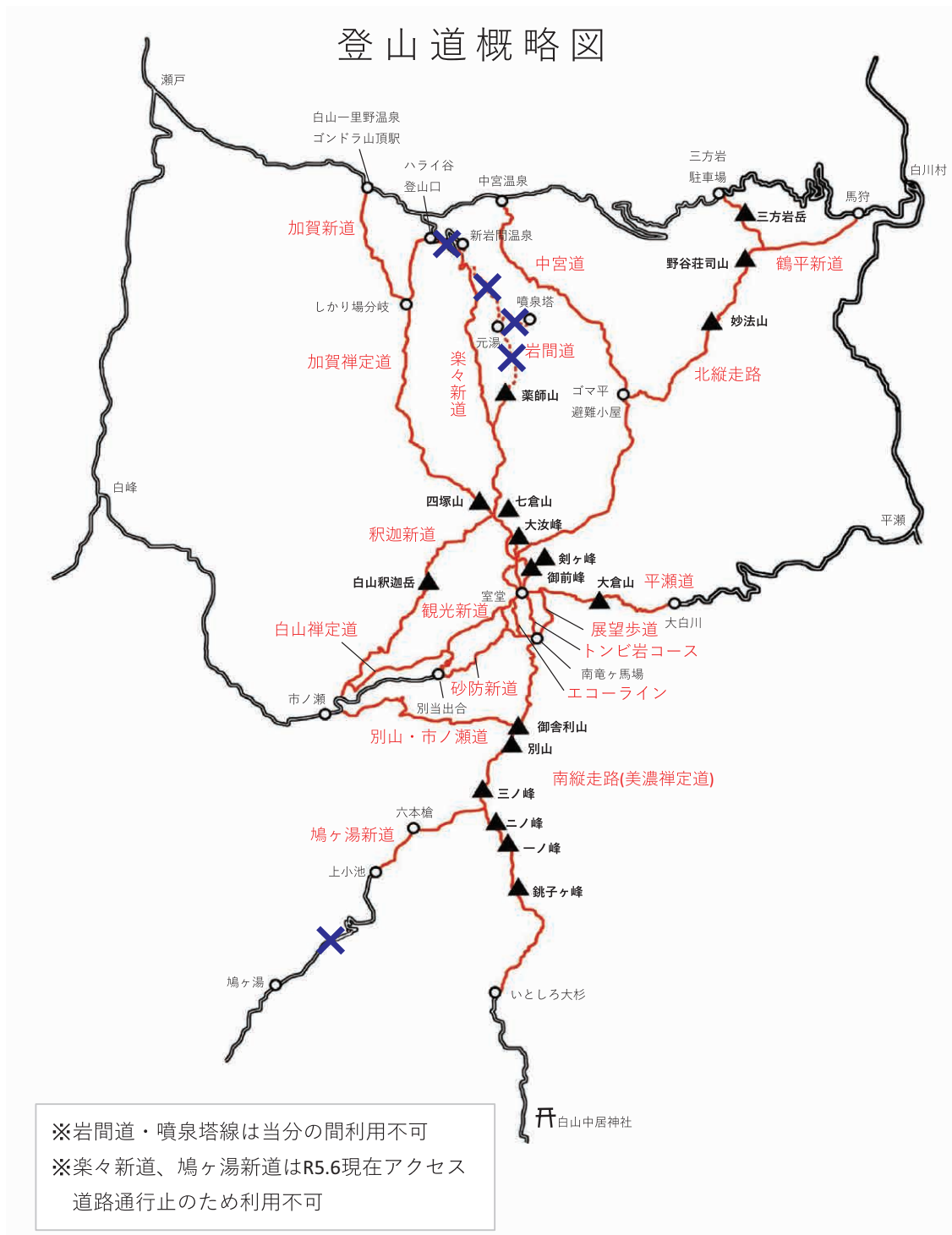
別当出合駐車場の混雑状況

6. 最後に

登山では、少しでも体力にゆとりがあれば、その分景色や高山植物など楽しむ余裕が生まれます。体調を万全に整え、楽しい登山を堪能して頂ければ幸いです。



シャトルバスの運行状況



令和4年度 白山まるごと体験教室をふり返って

川島 敦仁（白山自然保護センター）

「白山まるごと体験教室」は、白山の自然・生活文化についてその神秘さや不思議さを体験し、学び取ることで、自然の素晴らしさ・大切さに理解を深めてもらうために行っている募集型の企画です。

2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染症の確認から3年目を迎えた昨年度は、ようやく感染者の減少傾向が見られたので、対策を講じつつ、白山まるごと体験教室も一部内容を変更し、全4回すべて実施しました。今回はその体験教室をふり返り、活動の様子を紹介します。

1. 新緑の白山ろくで散策とお花炭づくり

5月28日（土）に、市ノ瀬ビジターセンター及び関連施設で開催しました。午前中は植物や木の実など自然の材料をもとにお花炭を作りました。花炭とは、松ぼっくりや葉っぱなどを炭化させたもので、かつては茶道の鑑賞用に用いられたものです。

午後からは、ガイドの案内を受けながら自然観察路を散策し、炭焼きがまの跡なども見学しました。先人がはぐくんだ昔の生業に触れ、人と自然との関わりについて考える企画です。

当日は天候にも恵まれ、さわやかな空気に包まれた1日となりました。花炭づくりでは、七輪を使って火を起こし、たくさん用意しておいた色々な材料を空き缶にそっと並べ穴の開いた蓋をし、火にかけます。穴から出る煙の色に注意を払いながら完成を待ちます。1回目は失敗もありましたが、固めの松ぼっくりや木の実などはうまく出来上がり、2回目以降は失敗もなく、参加者の皆さんから「自分で花炭が作れるとは思わなかった、実際にやってみて楽しかった」との声がありました。花炭づくりの合間には、講師の方から白峰の昔の暮らしについてお話を聞きました。

午後の散策では、触れるとかぶれるツタウルシ、爪楊枝にもなる香りのよいクロモジ、そして、その実のでき具合でクマの出没に影響を与えるブナやミズナラなど様々な植物の解説をガイドボランティアの方から受けつつ、白山展望台に向かいました。また、炭焼きがま跡の解説については講師の方から聞きました。白山展望台では、参加者全員でそこから白山を望むことができました。「ガイドの方の豊富な知識のおかげで充実した散策ができた、花炭も散策も同グループの方々との交流も楽しく、仲良くできてよかった」と参加者の方からの声がありました。今後は参加者が持ち込める素材の具体例を事前にお知らせできるようにしておければと思いました。



火起こし奮闘中



昔の白峰の暮らしについて



当時の炭焼きがまについて



やった！できた！お花炭



白山展望台にて

2. 蛇谷峡谷&蛇谷風景林で見る・遊ぶ・学ぶ

7月9日（土）に中宮展示館、三方岩岳及び蛇谷園地で開催しました。蛇谷風景林を歩き、その雄大さを感じる、森林の雰囲気を感じ取るとともに、蛇谷峡谷を歩き、峡谷や滝などの成り立ち、また川などに棲む生き物について学ぶ企画です。

当日の午前中は、三方岩岳トレッキングを実施しました。程よく雲もあり、暑すぎずトレッキングをするには快適なちょうど良い天候でした。参加者の皆さんは体調もよく、ガイドボランティアの方の解説（ヤマウルシのかぶれに注意、トキソウ、食虫植物のモウセンゴケ、標高と気温の関係、キボウシの葉が皿として使われていたこと、ナナカマドの紅葉、ササユリ、ヒノキの仲間の見分け方など）を楽しんで聞きながら登っている様子でした。参加者の方からは、「涼しくて気持ちよく、ガイドさんが色々な花や植物の説明をしてくださったのでよかった」、「事前にホワイトロードの植物についてのパンフレットをいただいていたので、その植物を探しながら（特に希少なものを見つけること）山登りができて楽しかった」の感想がありました。また、移動のバスでは、スタッフによるホワイトロードの紹介を聞きながらのドライブとなりました。蛇谷園地駐車場に向かう途中雷雨となり、蛇谷園地の散策の予定を急遽中止とし、中宮展示館に戻ることにしました。中宮展示館では、石川森林管理署の方から日々の業務についての説明を受け、その後、とてもよい香りのする能登ヒバのおがくずとキーホルダーが参加者にプレゼントされました。「石川森林管理署の方々がどんな仕事をされているかがよく分かっておもしろかった」との参加者からの感想がありました。ガイドボランティアの方からは中宮展示館や市ノ瀬ビジターセンターなどで活動している様子や中宮水遊びdaysというイベントが始まること、それぞれの施設では、季節によって四季折々の楽しみがあるのでぜひ何度も足を運んでみてほしいとの説明がありました。

午後は天気悪化で蛇谷園地には行けず、三方岩岳の登山となりとても残念でしたが、「グループで花の名前を聞き合いながら楽しく登山できたことがとてもよかった」との感想もあり、少し救われた思いがしました。



注意事項を確認！



さあ、スタート！



一歩、一歩！



もうすぐ頂上！



お！ノビネチドリ



頂上で一休み！

3. 手取峡谷で石ころ探し

10月2日（日）に白山市立吉野谷公民館、黄門橋及びバードハミング鳥越下の河原で開催しました。手取峡谷の河原で手取川が上流から運んできたさまざまな石を観察し、また、地形・地質のダイナミックな面白さに触れ、川のはたらきや峡谷の成り立ちについて学ぶ企画です。

河原に行く前に、公民館でミニレクチャー「川の働き、峡谷の成り立ち、地質概要」を行い、手取川について学びました。世界的には、手取川は、かなりの急流河川であることや川が土砂に対して及ぼす3作用（浸食・運搬・堆積）、土砂の粒径と川の流速により発現する作用が変わってくることなどの説明を受けました。黄門橋では、そこから望める上流域を具体例として、峡谷の成り立ちの解説をガイドの方から受けました。参加者から「手取川峡谷の成り立ち、2万年をかけて完成したこと、その川的作用により私たちの生活も成り立っていることが分かり、そのつながりが興味深かった」などの声がありました。

河原に下りて、ガイドの方から「石ころの観察の仕方と種類」についての説明を受け、石ころ探しを開始。参加者の方々は河原のあちこちに広がり、配布された岩石資料と見比べながら、石ころ探しをしました。高さ4～5mの対岸の大岩には、8月4日（木）の大雨で流れてきたと思われる大木が取り残されており、当時、その高さ以上に川が増水したことを目の当たりにして、普段の穏やかに流れる手取川とは異なり、大雨で荒々しく変貌するその姿に、参加された皆さんは驚かされていました。

昼食後、午後のミニレクチャー「ジオパークの話」で、白山手取川ジオパークの話を聞きました。その中で、白山市全域がエリアであること、白山から美川まで「水でつなぐ」をテーマとしていること、保護と教育だけでなく地域の活性化（産業振興）も柱としていて、自然と人間の活動（開発）のバランスをどうとっていくかも重要なポイントとしていることなどを聞きました。集めた石の整理の際は、講師の助言や資料をもとに、マジックで石に名前（安山岩など）を書き込んだりしました。参加者からは、「特に意識しないで拾った石が思いがけなく、よい石だったことが嬉しかった」、「石灰岩の鑑別のために塩酸で実験したことがおもしろかった」との声があがっていました。また、他の参加者の方から「このような経験をどのように活かすべきか考えさせられます。自然保護、経済活動など、1人1人がどのようにジオパークに貢献できるのか」、「こんな低価格でいい経験させてもらえてありがたいのですが、参加者に何かミッションを課してもいいのではないのでしょうか。」など貴重な意見を頂きました。今後は、自然界の一員として人がどのように関われるかをより考えたり、また、参加することで達成感が得られるような内容となるよう工夫を凝らしていきたいと思えます。



事前に、ミニレクチャー



さあ、石ころ探し開始！



大岩の上に大きな流木！



集めた石を再チェック

4. 白山ろくけものセミナー～動物観察と狩猟話～

観察舎からの観察とかんじきをはいて動物の痕跡探しをしたり、白山麓に生息している野生動物の生態や狩猟・流通について話を聞きます。それらを通して、野生動物との関わり方について興味・関心を高め、その理解を深める企画です。令和5年2月12日（日）に、ブナオ山観察舎、白山ふもと会で開催しました。

前日の雨の影響もあり、積雪はあるものの、かんじきを履いていても雪が柔らかくやや歩きにくい状況でした。ブナオ山観察舎の周辺でかんじきを履いて動物の痕跡探しを行いました。

簡単にかんじきの履き方を説明後、スタッフの協力のもと各自で履いてみました。いよいよ「歩く・見つける」ことの本番です。参加者の方を4グループに分け、各班にガイドボランティアの方に担当してもらい歩きます。テン、キツネの足跡、ウサギの糞、食痕、クマ剥ぎなど見つけることができました。

参加者の方から「かんじき体験では、少人数制で安全かつ詳細な説明を聞いてよかった」との声がありました。この後、ブナオ山観察舎で、ブナオ山観察舎で見られる動物の解説と双眼鏡などを使い、実際に対岸のブナオ山に生きる動物を探してもらいました。今年はブナオ山の積雪が少なく、茶色の山肌が剥き出しとなっているところも多く、サルは見つかったものの、カモシカは見つけにくい状況でした。

午後のふもと会では、猟師の方による狩猟のお話があり、動画を使って、冬山でクマを追いかける猟師たちの姿を見ながらお話を聴きました。仕留めた後にクマを現場で解体処理し、昔は、その一部を食した猟師たちの姿に参加者の眼はくぎ付けでした。また、解体処理施設の見学では、ふもと会の方から商品としての価値を持たせるには、現場での血抜きがとても大事であること、その成否で品質が大きく左右されることを学びました。その後、施設で処理・保存の流れの説明を聞きました。

最後はジビエ料理の試食、シカとイノシシのローストを頂きました。美味しく、参加者の方にはとても好評で盛り付けた後の残りも、おかわりする人ですべてなくなってしまうほどでした。参加者の方から「午後の施設見学では、見て・聞いて・触れて・味わっての五感を使った、とても貴重な体験をさせていただきました」、「この行事でたくさんの大人の方がスタッフとなって関わってくださっていることに驚きと感謝の気持ちでした。ありがとうございました」との感謝の言葉をいただきました。今後は、体験教室の名が示すように、「感性を刺激することができるような」企画を盛り込み、皆さんが楽しんで頂けるようしていきたいと思えます。



かんじきはここをこうやって



この食痕は誰かな？



カモシカ、サル、イヌワシ etc



解体処理のポイントは！



狩猟の場面に眼がくぎ付け

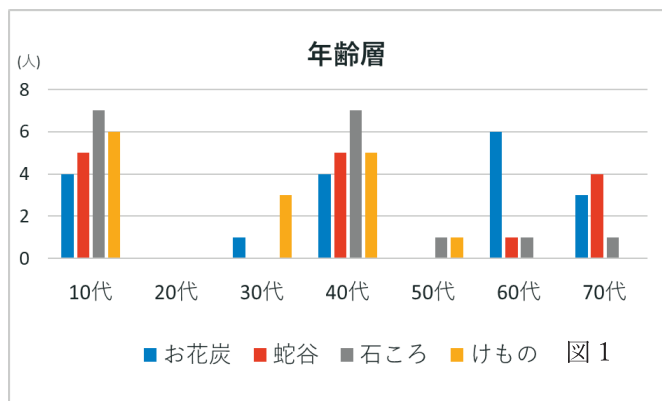


おいしいジビエ料理を堪能

5. 白山まるごと体験教室のふり返しアンケート（4行事全体）

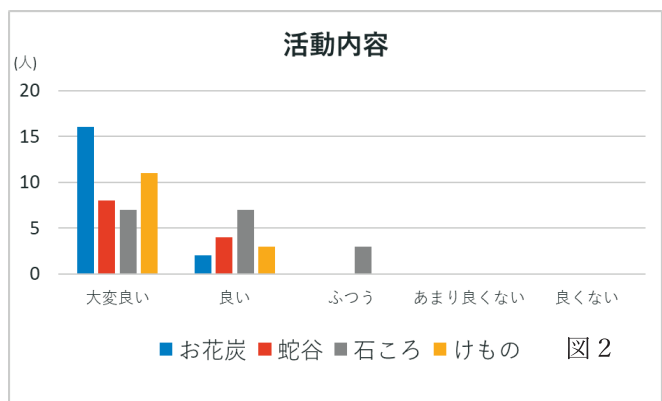
（1）年齢層について

図1でわかるように、10代（未満を含む）と40代の方が多くことがわかります。40代の方々がご家族でお子さんとともに参加されていることが多く、そのことが表れた結果だと思います。特に、「石ころ探し」と「けものセミナー」では、このことが顕著に表れています。また、どの行事においても20代の方の参加がないことは残念です。是非一度、インターネットや新聞等を通じて行事のお知らせをご覧頂き、参加を願えればと思います。



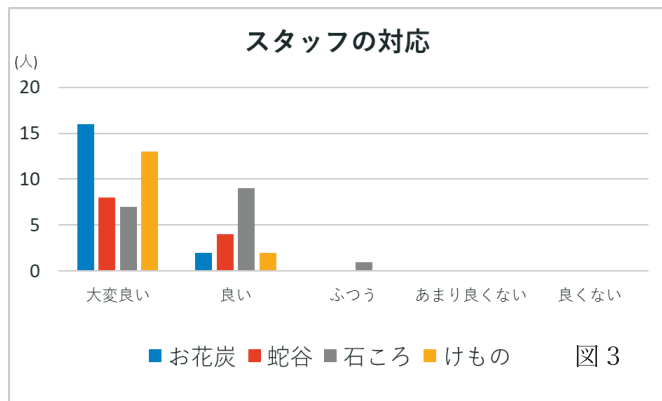
（2）活動内容について

活動内容については、「大変良い・よい」が合わせると、95%となりました。多くの行事において好評をいただいています。初めて目にするものや自分で制作したもの、味わえるものに対する興味関心が高く、満足感に繋がっているようです。今後は、さらにより多くの皆さんに楽しんで頂けるよう、新しい内容を盛り込んだりして、創意工夫に努めていきたいと思っています。



（3）スタッフの対応について

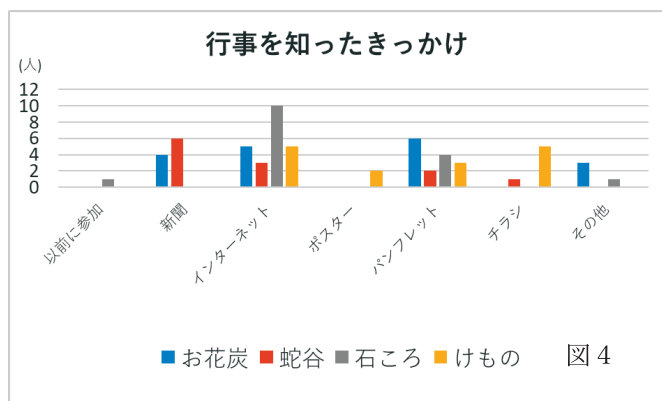
スタッフの対応については、「大変良い・よい」が合わせると、98%となりました。これは、主催・共催する関係機関の職員だけでなく、白山自然ガイドボランティア友の会、パークボランティアの皆さんの協力があったはじめて可能になったことではないかと思っています。申し込まれた方々が、安心して各行事に取り組めるよう安全第一を考え、今後も関係機関並びに両ガイドボランティアのご支援を頂いて進めていきたいと思っています。



（4）行事を知ったきっかけについて

参加した行事を知ったきっかけについての問いには、インターネットと答えた方が最も多く、次いでパンフレット、新聞という順になっています。

自然保護センターでは、各行事が始まる一ヶ月ほど前にポスターやチラシを近郊の道の駅や図書館などに配布・掲示しています。自然保護センターのホームページでも、各種行事のお知らせを随時盛り込んでいきたいと思っていますので多くの皆さんの申し込みをお願いします。なお、定員がありますので申し込みはお早めをお願いします。



6. 過去に開催された白山まるごと体験教室

これまで過去に開催されたものの中から、特色のあるものをご紹介します。

タイトル	年 度	場 所	概 要
白山ろく生き物ウォッチング	H30	市ノ瀬	専門家の話を聞きながら、鳥、昆虫など動物たちの暮らしの様子を観察する
探検！発見！白山ろくナイト	H30	中 宮	夜の森を動物の専門家とともに歩き、夏の夜に見られる生物を観察する
白山ろくきのご教室	H30	市ノ瀬	専門家の話を聞きながら、様々な林に生えているきのこを観察する
紅葉の市ノ瀬散策とエコバックづくり	H29	市ノ瀬	動植物の専門家と観察路を歩き、見つけた葉を使ってエコバックに模様づけをする
トチノキ観察とトチモチ作り	H27	市ノ瀬	チブリ尾根でトチノキを観察し、もちつきなどトチモチづくりを体験する
早春の花 カタクリ大群落に出会う	H25	中 宮	ピンクのじゅうたんを敷き詰めたようなカタクリなど春植物を観察する
春グマ観察会	H25	尾 添	双眼鏡を使っての観察、生態や行動について専門家の話を聴く
太古の白山を化石で探る	H25	木 滑	河原の化石や石ころを観察し、太古の白山やその生い立ちについて考える
野生動物の足跡を探そう	H25	尾 添	クマ博士といっしょに秋の山を歩きながら、野生動物の足跡や餌を食べた痕跡を探す
隠れた巨石 三ツ石のイワナと水生昆虫観察	H23	市ノ瀬	岩屋俣谷の巨石とイワナや水生昆虫など川の生き物に触れる
木の実の観察と菓子づくり	H23	中 宮	クルミの入った地元中宮の郷土菓子（ねんぐあじ）を作り、中宮の民謡を楽しむ
アケビのつるでカゴ作り	H23	中 宮	アケビの観察とアケビのつるを使って、ぬくもりのある素朴なカゴをつくる
イヌワシを見つけよう	H23	尾 添	イヌワシが大空を飛んだり、木に止まっている姿を双眼鏡やフィードスコープを使って探す



白山ろくナイト



トチモチ作り



イワナと水生昆虫観察

白山外来植物除去活動について

北原 岳明（白山自然保護センター）

当センターで実施している白山外来植物除去活動について、令和4年度の活動状況を交えて紹介します。

1. 白山外来植物除去活動とは

白山には多様な高山植物が生育しており、「花の百名山」の一つにも挙げられています。しかし、登山や工事などで人が白山に入ることにともない、海外由来の植物や、本来高山帯や亜高山帯に生育していない低地の植物が侵入してきており、それらを「外来植物」と呼んでおります（図1）。

これら外来植物については、白山に元々生育していた植物（以下、「在来植物」）の生息場所を奪ってしまったり、在来植物との雑種を作ってしまう恐れがあるため、侵入を防止する対策及び侵入したものを排除する対策が実施されております。例えば、白山には高山性のハクサンオオバコ（写真1）が生育しているのですが、近縁種である低地性のオオバコが侵入してきており、南竜ヶ馬場では交雑が確認されております。

当センターでは、平成13年（2001年）から平成15年（2003年）にかけて分布調査を実施した後、平成16年（2004年）より除去活動を開始しました。平成22年（2010年）からは自然公園法に基づく「生態系維持回復事業」としても実施されるようになり、以降は、国（環境省、農林水産省、国土交通省）、地方自治体、民間団体などが連携して除去活動のみならず侵入防止対策やモニタリング調査、普及啓発などを実施し、今日まで活動を続けてきているところです。

当センターの活動については、イベントによる除去活動、企業等団体が実施する除去活動への協力、その他活動の3種類に分けられるので、順番にご紹介します。



写真1 ハクサンオオバコ

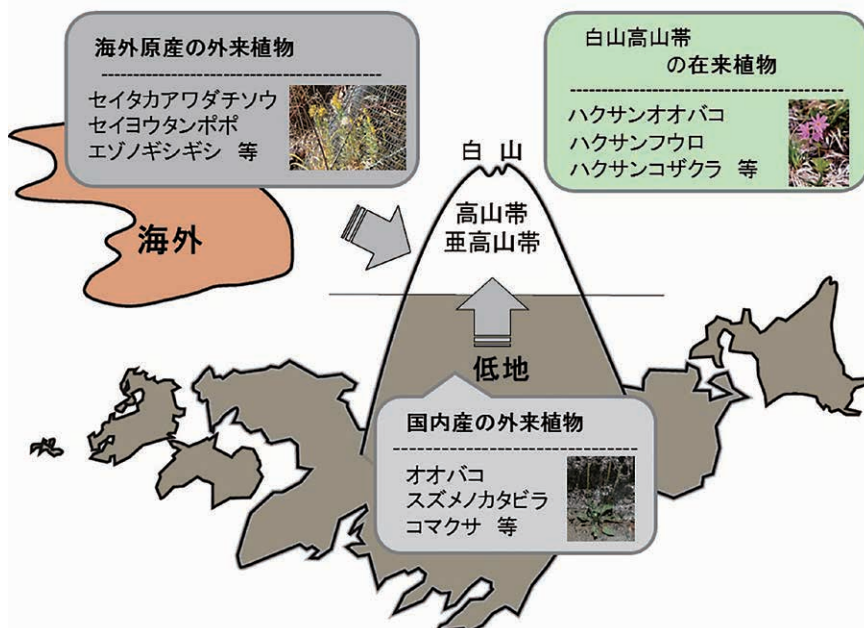


図1 白山への外来植物の侵入



写真2 イベントでの除去活動



写真3 研修講座の実施

(a) イベントによる除去活動

NPO法人「環白山保護利用管理協会（以下、「環白山協会」）」と共同主催で実施しており、市ノ瀬、室堂そして南竜ヶ馬場で行う除去活動、そして研修を実施してボランティア登録を行う研修講座の2本立てで行っております（写真2,3）。ボランティア登録された方については、個人的な登山の際などに、一定のルールのもと（除去方法・場所の指定、ゼッケン着用等）、除去活動を行っていただいています。

(b) 企業等団体の除去活動への協力

企業等団体が除去活動を希望する場合は、個別対応で除去活動のレクチャーも行っています（写真4）。また、石川県自然解説員研究会（以下、「自然解説員」）が白山での解説活動の合間に実施する室堂周辺でのセイヨウタンポポ等外来性タンポポの除去に対しては、除去のルール等を記載したマニュアルの作成・提供を行っています。

(c) その他の活動

上記の活動の他、主要地方道白山公園線でのセイタカアワダチソウの分布調査および除去、楽々新道の小桜平避難小屋でのオオバコ等の除去を実施しております。小桜平避難小屋については、環白山協会、環境省、林野庁（石川森林管理署、以下「林野庁石川署」）と共同で実施しております。

また、環境省が主催している白山白川郷ホワイトロード（以下、「ホワイトロード」）におけるオオハンゴンソウ等の除去を、環白山、林野庁石川署、およびホワイトロードの管理者である（公財）石川県農林業公社と共同で行っております（写真5）。



写真4 団体へのレクチャーの様子



写真5 ホワイトロードでの除去活動

2. 令和4年（2022年）の活動状況について

令和2年（2020年）より流行した新型コロナウイルス（COVID-19、以下「新型コロナ」）感染症の影響により、令和2年から令和3年（2021年）にかけては満足な活動を行うことができませんでした。令和4年については、新型コロナの規制緩和等に伴い、実施することが出来たので、主な実施状況について、ご報告します。

(a) 環白山協会と共催のイベント

研修講座については、6月1日（水）及び7月3日（日）の2回実施しました。3年ぶりに新規参加者の募集を再開し、計59名（うち新規24名）の参加がありました。

市ノ瀬での除去活動については、6月26日（日）に実施し、個人参加に加えて、団体参加の建設コンサルタント協会石川支部及び中日本ハイウェイエンジニアリング名古屋（株）計107名の参加がありました。登山者の入口となる市ノ瀬駐車場で作業を実施し、オオバコ73.94kg（45ℓゴミ袋9袋分）を除去することが出来ました。

室堂での除去活動は中止となってしまったものの、南竜ヶ馬場については、9月10日（土）から11日（日）にかけて5年ぶりに実施することが出来ました。南竜山荘や南竜ヶ馬場野営場周辺で除去作業を実施し（写真6）、オオバコ5.6kg、その他クサイやスズメノカタビラ、エゾノギシギシ等を除去しました。継続的な除去活動が功を奏し、南竜ヶ馬場では除去開始当初の平成17年（2005年）に比べて、オオバコがかなり減少しました（図2）。



写真6 南竜ヶ馬場での除去の様子



写真7 (一社)白山野々市建設業協会の活動の様子

(b) 企業等団体による除去活動について

8月2日（火）に、（一社）白山野々市建設業協会が白山室堂において、スズメノカタビラの除去活動を実施しました。協会員及びそのご家族など18名が参加しました。室堂のレクチャーホール（食堂）にて外来植物除去について講義を行った後、室堂周辺で除去活動を実施し、スズメノカタビラ0.9kgを除去しました（写真7）。

8月26日（金）には、イオン店舗を拠点にSDGsや環境問題を学ぶクラブ団体である「イオンチアーズクラブ野々市南店」（以下、「イオン」）が市ノ瀬にてオオバコの除去を行いました。イオンからは小中学生10名を含む14名が参加し、外来植物除去の目的などを紙芝居でレクチャーした後、オオバコ1.7kgを除去しました（写真8）。

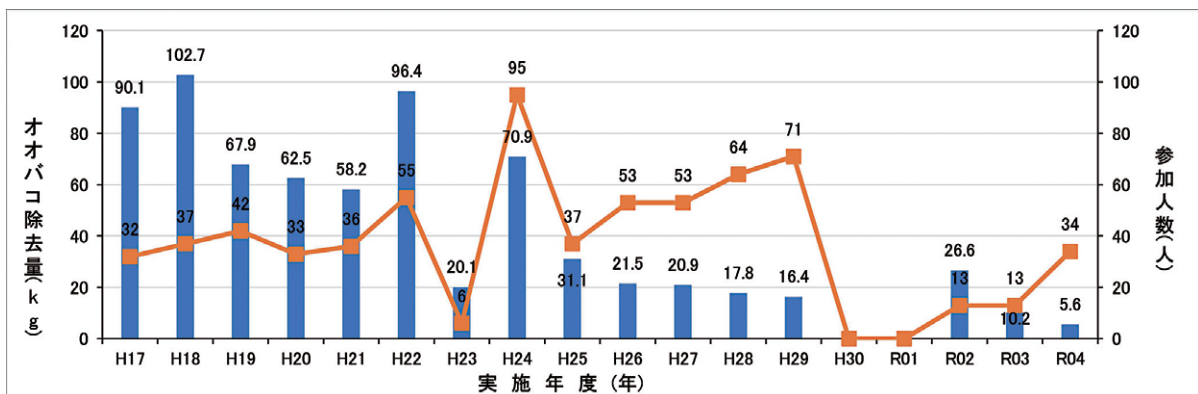


図2 南竜ヶ馬場でのオオバコ除去量の推移（令和2～3年は環白山協会の有志で実施）



写真8 イオンチアーズクラブ野々市南店の活動の様子



写真9 竹腰永井建設株の活動の様子

10月31日（月）には、白山市白峰の建設会社である竹腰永井建設（株）の社員11名が市ノ瀬にて除去活動を行いました。新型コロナ流行下でも継続して参加いただいております、レクチャーを行った後、市ノ瀬駐車場でのおオバコ4.8kgを除去しました（写真9）。

また、自然解説員による活動については、新型コロナ流行により休止していた白山での解説活動が2年ぶりに再開されたことに伴い、外来性タンポポの除去も再開することとなりました。7月中旬から8月中旬にかけて、室堂周辺で約4.3kgの外来性タンポポを除去しました。

（c）その他の活動

ホワイトロードでの除去については7月8日（金）に除去に参加し、オオハンゴンソウ1.1kg等を除去しました。オオハンゴンソウについては、除去開始当初の平成19年（2007年）は57.1kgを除去しておりましたが、継続的な除去が功を奏し、生育がかなり抑えられました。

セイタカアワダチソウについては、10月19日（水）に白山市白峰の風嵐ゲートから別当出合の間で除去を実施しました。また、当センターの研究報告にこれまでの除去をまとめ、継続的な除去により生育が抑えられていること、園地等で新たに群落が発見されていること等より今後も継続的な除去が必要なことを示すことが出来ました。

なお、小桜平避難小屋での除去については、令和4年（2022年）8月の大雨により登山口に通ずる主要地方道岩間一里野線が通行不能となったため、実施できませんでした。

3. おわりに

今年については、5月8日（月）より新型コロナの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたため、新型コロナ流行前と同様に除去作業を実施していく予定です。

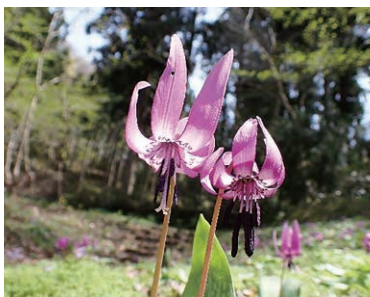
研修講座と市ノ瀬での除去について無事終了しましたが、8月19～20日（土日）に行う室堂での除去、そして9月9～10日（土日）に行う南竜ヶ馬場での除去については、まだ募集中ですので、ご興味のある方は参加をご検討いただくと幸いです。小学生の参加も可能ですので、親子での参加もお待ちしております。

また、企業等団体については、例年来ていただいている団体に引き続き協力・支援していくと共に、新たな団体につきましても参加をお待ちしております。学校の課外活動や企業の社会貢献活動の一環として、ご興味がある場合は、当センターまでご相談いただければと思います。

白山外来植物除去作業には、個人・団体ともに毎年多くのボランティアに参加いただいております、多くの方々のご協力により、白山での外来植物の勢力が抑えられており、在来植物を守ることに繋がっています。ボランティア等関係者の方々については、これまでのご協力に感謝するとともに、今年もご協力をよろしくお願いいたします。

センターの動き（令和5年2月1日～6月30日）

2.1	白山火山防災協議会	(金沢市)	4.29	中宮展示館早春days（～5.7）	(中宮)
2.8	カモシカ調査員会議	(白山市)	5.8	ブナオ山観察舎閉館	(尾添)
2.9	カモシカ特別調査（～R5.5）	(白山市)	5.15	カモシカ担当者会議	(Web)
2.12	白山ろくけものセミナー	(白山市)	5.23	第1回白山二県合同山岳遭難防止対策連絡会議	(Web)
2.20	白山国立公園生態系維持回復事業検討会	(金沢市)	5.27	新緑の白山ろくで散策とお花炭づくり	(市ノ瀬)
3.11	令和4年度石川県自然解説員研究会総会	(白山市)	6.2	白山外来植物除去活動ボランティア研修講座	(白山市)
3.20	オキナグサ盗掘防止パトロール（～5.27）	(白山市)	6.5	白山麓別当谷安全協議会総会	(白山市)
4.6	白山登山交通対策協議会総会	(白山市)	6.10	県民白山講座 白山登山と高山植物の集い	(金沢市)
4.15	第1回ガイドボランティア研修講座・総会	(能美市)	6.17	第2回白山自然ガイドボランティア研修講座	(白峰)
4.28	クマ出没対応連絡会議	(白山市)	6.25	オオバコ等除去 in 市ノ瀬	(市ノ瀬)
4.29	市ノ瀬V C、中宮展示館開館	(白山市)	6.29	白山火山防災訓練	(市ノ瀬)



4月11日 例年より少し早い時期に自然保護センター近くで咲くカタクリ



4月15日 第1回ガイドボランティア研修講座をいしかわ動物園で開催



5月27日 市ノ瀬にて白山まるごと体験教室を開催、お花炭づくりに挑戦

たより

昨年度は新型コロナもようやく沈静化に向かい、コロナ前とほぼ同様のスタートを切ったシーズンでした。しかし、シーズン前半の夏8月に思わぬ大雨に見舞われ、白山白川郷ホワイトロード石川県側無料区間において一部道路の崩落が起り、石川県側からの白山白川郷ホワイトロードの通行ができなくなりました。今年度は道路の復旧も進み、交互通行ながら4月末には崩落部分の通行が可能となり、中宮展示館にも自家用車で来ていただけるようになりました。このまま順調に工事も進み、白山白川郷ホワイトロードに多くの方が足を運んでいただけることを期待してやみません。

さて、上の写真のカタクリは、当センター周辺でも例年より少し早く花をつけた様子です。4月15日には第1回ガイドボランティア研修講座をいしかわ動物園で開催し、将来の放鳥で話題のトキをはじめ、ライチョウ、イヌワシなど鳥類に関する講演を聞くことができました。5月27日には白山まるごと体験教室「新緑の白山ろくで散策とお花炭づくり」を市ノ瀬野営場で開催。松ぼっくりや木の実、草花などでお花炭をつくり、その後白山展望台まで散策をしました。（川島）

はくさん 第51巻 第1号（通巻198号）

発行日 2023年7月7日（年3回発行）
印刷所 株式会社大和印刷社

編集・発行

石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
TEL. 076-255-5321 FAX. 076-255-5323
URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>
E-mail. hakusan@pref.ishikawa.lg.jp

本誌は、再生紙へのリサイクル可能な用紙を使用しています



(1) 広告

「はくさん」に広告を掲載して PR サービス・集客 しませんか？

広報紙広告ならではの

メリット

地域に根ざした

情報発信

地域での

知名度向上

自治体発行の

信頼度の高い

広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！

お問い合わせ 092-716-1401 (代表) 株式会社 ジチタイアド 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F 財源確保 検索

※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に会社化しております。